

令和 4 年 6 月 1 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19H01294

研究課題名(和文) 近世海上貿易ネットワークの構造と変容：アジアの季節変動とグローバル・ヒストリー

研究課題名(英文) Structure and its Transformation of Maritime Trading Network during the Early Modern Period: Asian Seasonal Movement from Perspectives of Global History

研究代表者

島田 竜登 (Shimada, Ryuto)

東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・准教授

研究者番号：80435106

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,300,000円

研究成果の概要(和文)：グローバル・ヒストリー研究的関心に基づき、近世海域アジアの港市のネットワーク分析を特に季節変動という自然環境面に着目した事例研究として実施した。港市間や港市と後背地とのネットワーク関係、港市の都市生活について、それらの季節変動性を明らかにし、17世紀半ばから19世紀半ばにかけて、海域アジアで世界的連鎖の下に生じた社会変化を分析した。また、「長期の18世紀」という新たな概念を創出し、近世グローバル・ヒストリー研究の発展の一助とした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、グローバル・ヒストリー研究の必要性が強く喚起されているが、空中戦のごとき実証性に乏しい議論が数多くなされている。それに対して、本課題研究では、海上貿易のネットワークについて季節変動性を考慮に入れて実証面を重視するグローバル・ヒストリーの方法を開発することを目的として近世アジアの海域ネットワーク分析を実施した。これは実証面のレベルでグローバル・ヒストリー研究の質的向上に寄与するものである。

研究成果の概要(英文)：The project investigated the trading network between port cities in maritime Asia during the early modern period as a case study of global history by focusing on natural environment, namely seasonal movement in particular. By analyzing seasonal changes in the trading network between port cities and between port cities and their hinterlands as well as seasonal changes in lives of the people involved in the trading network, the project revealed general social changes in maritime Asia in global links from the mid-seventeenth century to the mid-nineteenth century. In addition, the project was done to create early modern global historiography under a new conceptual framework of "Long eighteenth century".

研究分野：史学一般

キーワード：海域アジア史 グローバル・ヒストリー 貿易ネットワーク 港市 後背地 季節変動 自然環境 長期の18世紀

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年、グローバル・ヒストリー研究の必要性が強く喚起されている。しかしながら、空中戦のごとき実証性に乏しい議論が数多くなされており、このままでは、今後、歴史学としては、長期的にグローバル・ヒストリー研究の発展が望めぬ状況にあるといえよう。実証研究をベースにしてグローバル・ヒストリー研究の質的発展を図る必要がある。そこで、本課題研究は、グローバル・ヒストリー研究について、実証面のレベルで質的向上を図る分析視角を開発するため、まずは近世海域アジアの港市のネットワーク分析を事例研究として行うこととした。近世海域アジアでの実証研究を行い、その過程で、自然環境と社会変化との関係性分析、さらに、その世界的連鎖を統合分析するための方法論を一般化させ、グローバル・ヒストリー研究の深化に役立てることを計画した。

(2) また、近年のグローバル・ヒストリー研究では、16世紀から19世紀にかけての初期近代(近世)に関して注目されている。現代の我々の社会構造や文化の形成に直接かかわる19世紀後半以降のいわゆる狭義の近代に対して、それ以前の16世紀までにさかのぼる初期近代(近世)期に、緩やかではあるが確実にグローバル化が進展し、そのなかで現代社会・文化の基層が形成されてきたことを明らかにすることに研究者の関心が国内外で多く払われるようになった。こうした学術的背景を踏まえて、初期近代(近世)のグローバル・ヒストリー研究のさらなる深化を本研究課題に参加するメンバー各氏は国際的に貢献することも期待されている状況にあり、その意味で、初期近代(近世)のグローバル・ヒストリー研究全般についても積極的に研究活動をするものとした。

2. 研究の目的

(1) グローバル・ヒストリー研究の方法は様々ではあるが、そのひとつに横の連鎖を考察するという手法がある。本課題研究は、自然環境面を重視することで、当時の人々が創出していた世界的な連鎖のためのローカルな工夫を明らかにする。とくに、季節変動の激しいアジアの海域ネットワークに焦点をあて、ローカルな社会のグローバルな連鎖を解明する新たなグローバル・ヒストリー研究のための方法論を磨き、提示する。このことによって、実証的なグローバル・ヒストリー研究についてのひとつの手法を確立し、グローバル・ヒストリー研究の深化をはかることを本課題研究は目的とした。

(2) また、近年、グローバル・ヒストリー研究では、先述の通り、初期近代(近世)期研究の重要性が強く認識されているが、この研究動向に応じ、積極的に初期近代(近世)期を対象としたグローバル・ヒストリー研究を総括的に進めることも本研究課題の目的とした。とくに、時代区分の概念として「長期の18世紀」というフレームワークを設定し、近代化直前期におけるアならびに世界の諸社会の「見えざる」変化を析出することになる。

(3) なお、日本でかつて飛躍的に進展したが、近年は停滞気味である海域アジア史研究の現状を一変させ、その成果をグローバル・ヒストリー研究に役立てる道筋を作ることで、グローバル・ヒストリー研究の飛躍的発展とともに、海域アジア史研究のさらなる発展のための起爆剤となることも本研究課題の目的のひとつとした。

3. 研究の方法

(1) とくに季節変動という自然環境面に着目し、季節変動が人々の生活に与えた影響の大きい東アジアから東アフリカまでの海域アジア全体の分析を実施することとした。港市間や港市と後背地とのネットワーク関係、港市の都市生活について、それらの季節変動性を明らかにし、「長期の18世紀」に海域アジアで世界的連鎖の下に生じた社会変化を分析をこととした。

研究事項としては、出入港船舶データの作成とネットワーク分析を行った。各港に来航した船舶の(ヨーロッパやアメリカ大陸も含めた)出発・目的地、入港・出航日のデータを作成し、史料的に可能であれば港市は主要貨物も対象とした。これにより、当該港市から見た海上貿易ネットワークと季節変動、ならびにその変容が分析できた。

こうした実証分析のため、海外の公文書館が所蔵する史料の調査・収集を実施することとした。アジア諸国にある文書館や図書館のほか、英国図書館旧インド省文書室、オランダ国立公文書館など、本研究課題に関する重要史料を所有する欧米の機関も史料調査・収集の対象とした。

(2) 初期近代(近世)のグローバル・ヒストリー研究に関する国内外の動向をふまえつつ、その研究の進展をはかるために、国内外で開催されるワークショップなどに参加し、グローバル・ヒストリー研究の発展を本課題研究がリードすることを企図した。具体的には2019年度には、イギリスのウォリック大学とタイのチュラーロンコーン大学での国際会議に複数のメンバーが参加・報告するという形で積極的にかかわることとし、さらに、日本の東方学会でのシンポジ

ウムに全面的に協力することとした。

(3)以上の研究により得られた成果は、国内外の学会大会や国際会議などで報告し、最終的には日本語ならびに英語で出版を行うこととした。

4. 研究成果

(1)グローバル・ヒストリー研究につき、実証面のレベルで質的向上を図る分析視角を開発するため、近世海域アジアにおける港市のネットワーク分析を事例研究として行うことにし、とくに季節変動という自然環境面に着目し、季節変動が人々の生活に与えた影響が顕著な東アジアから東アフリカまでの海域アジア全体の分析を企図した。海上貿易は貿易風を利用するとともに、1年のうちで風向きが真逆となる季節風も利用して行われていた。港市間や港市と後背地とのネットワーク関係、港市の都市生活について、それらの季節変動性を明らかにし、17世紀半ばから19世紀半ばにかけて、海域アジアで世界的連鎖の下に生じた社会変化を分析することとしたところである。さらに、以上の研究過程で、自然環境と社会変化との関係性分析を行い、くわえて、その世界的連鎖を統合分析するための方法論を一般化させ、グローバル・ヒストリー研究の深化に役立てることを提起した。主たる成果としては現在までのところ、研究代表者による国際学会大会での口頭報告1件のほか、研究分担者(鈴木英明)による論文1件がある。

(2)本課題研究は、上記の季節変動に関する実証研究のほかに、グローバル・ヒストリー全般や近世海域アジア研究全般について総括的な研究を並行して行ってきた。

初期近代(近世)のグローバル・ヒストリー研究に関しては、2019年10月17日にイギリスのウォリック大学にあるGlobal History and Culture Centreで開催されたワークショップ「Categories at Work in Global History」に参加した。本課題研究のグループからは、研究代表者(島田竜登)、研究分担者2名(鈴木英明、守川知子)、研究協力者1名(小林和夫)が参加し、報告を行った。くわえて、研究代表者は南米のチリ・カトリカ大学で開催された国際ワークショップ「Trans-Pacific Histories of Natural Resource」で口頭報告を行った。

また、本課題研究では、グローバル・ヒストリーやアジア史における時代区分の概念として「長期の18世紀」という新たな研究上のフレームワークを措定し、近代化直前期におけるアジア社会の「見えざる」変化を析出することにつとめたが、その成果として、2019年11月9日に東方学会が開催し、本課題研究の研究代表者が企画者となった令和元年度秋季学術大会でのシンポジウム「「長期の十八世紀」と海域アジア」に積極的に協力した。このシンポジウムの内容は最終的に、*Acta Asiatica: Bulletin of the Institute of Eastern Culture*, 122, 2022に特集記事「The “Long Eighteenth Century” in Maritime Asian History」として掲載されることになった。ちなみに、本誌に掲載された論文は以下のとおりである。

Ryuto Shimada, “Introduction: Perspectives for Viewing Maritime Asian Society during the “Long Eighteenth Century”.”

Peng Hao, “Commission Merchants in the Chinese Junk Trade in Early Modern Nagasaki.”

Shinsaku Kato, “The Dutch East India Company in the Port City of Surat on the West Coast of India in the Eighteenth Century.”

Yoshihiro Taga, “Vietnam’s Economic Transformation during the “Long Eighteenth Century” as Seen from Revenue Farming: With a Focus on the Nguyen Dynasty’s Linh Trung System.”

Michihiro Ogawa, “Changes in State Rule and Rural Society in 18th-Century Western India: With a Focus on the Land Revenue System under Maratha Rule.”

Teruko Saito, “Money, Loans, and Farmland Liquidity: Economic Changes in Burmese Villages in the 18th to 19th Centuries.”

(3)第1年度である2019年度には季節変動に関するデータ収集などの実証研究を開始するとともに、「長期の18世紀」におけるアジア社会の全体像やそれらを踏まえて新たなグローバル・ヒストリー研究の方法を模索する試みを行ったことは上述の通りである。しかしながら2020年に入ると新型コロナウイルスの流行に伴い、海外調査などを実施することは不可能となり、タイのチュラーロンコーン大学での国際会議を開催することも不可能となった。このような状況の下、本課題研究は規模を縮小して期間を延長しながら研究を実施せざるをえなくなったが、上述の成果を得たことになる。

(4)なお、本課題研究のうち季節変動に関する実証研究は、科学研究費基盤研究(C)「18世紀アジア域内貿易と季節変動調整メカニズム：オランダ東インド会社を事例として」(研究代表者：島田竜登)(2021年度～2023年度)、グローバル・ヒストリー全般については、科学研究費国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「「循環」を問い直す—物質・文化・環境を繋ぐグローバルヒストリー」(研究代表者：杉浦末樹・法政大学教授)(2019年度～2024年度)に受け継がれることになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Ryuto Shimada	4. 巻 122
2. 論文標題 Introduction: Perspectives for Viewing Maritime Asian Society during the "Long Eighteenth Century"	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Acta Asiatica: Bulletin of the Institute of Eastern Culture	6. 最初と最後の頁 iii-xv
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Peng Hao	4. 巻 122
2. 論文標題 Commission Merchants in the Chinese Junk Trade in Early Modern Nagasaki	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Acta Asiatica: Bulletin of the Institute of Eastern Culture	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田竜登	4. 巻 -
2. 論文標題 人の移動と経済史	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会経済史学会編『社会経済史学事典』丸善出版	6. 最初と最後の頁 418-419
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木英明	4. 巻 44(4)
2. 論文標題 海域世界の鼓動に耳を澄ます：19世紀インド洋西海域世界の季節性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立民族学博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 591-623
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 Ryuto Shimada
2. 発表標題 Rhythm of International Trading Business in Early Modern Nagasaki: A Seasonal Analysis
3. 学会等名 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies, Online (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ryuto Shimada
2. 発表標題 Latin American Silver into Tokugawa Japan
3. 学会等名 International Workshop: Trans-Pacific Histories of Natural Resources, Pontifical Catholic University of Chile, Santiago, Chile (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 島田竜登
2. 発表標題 シンポジウム趣旨説明：「長期の18世紀」と海域アジア 港市と農村の社会変化
3. 学会等名 令和元年度東方学会秋季学術大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 彭浩
2. 発表標題 近世の港市長崎と唐船貿易：売込人を中心に
3. 学会等名 令和元年度東方学会秋季学術大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ryuto Shimada
2. 発表標題 Commodity Chain and Cultural Divergence
3. 学会等名 International Workshop: Categories at Work in Global History, University of Warwick, Coventry, United Kingdom (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hideaki Suzuki
2. 発表標題 Network and Kaiiki: Node=network and Flow=network
3. 学会等名 International Workshop: Categories at Work in Global History, University of Warwick, Coventry, United Kingdom (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoko Morikawa
2. 発表標題 Pilgrimages and Holidays in Global History
3. 学会等名 International Workshop: Categories at Work in Global History, University of Warwick, Coventry, United Kingdom (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo Kabayashi
2. 発表標題 The Core-Periphery Model Reconsidered
3. 学会等名 International Workshop: Categories at Work in Global History, University of Warwick, Coventry, United Kingdom (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	彭 浩 (Peng Hao) (80779372)	大阪市立大学・大学院経済学研究科・准教授 (24402)	東アジア担当
研究分担者	鈴木 英明 (Suzuki Hidekaki) (80626317)	国立民族学博物館・グローバル現象研究部・准教授 (64401)	東アフリカ担当
研究分担者	守川 知子 (Morikawa Tomoko) (00431297)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・准教授 (12601)	西南アジア担当

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------